



淡路駅付近連続立体交差事業だより

Vol.09



～下新庄駅周辺で行われている工事を紹介します～

◆下新庄駅周辺の工事の紹介

今回は、下新庄駅周辺で行われている工事について紹介します。

○下新庄駅の改良工事

下新庄駅周辺は、現在の線路の横に仮の線路を設け、それにより空いたスペースに高架構造物をつくる「仮線(かりせん)工法」と、現在の線路の上に高架構造物をつくる「直上(ちよくじょう)工法」を組み合わせ、高架構造物をつくっていきます。※

※工法については「事業だより Vol.02(H24.01)」を参照してください。

下新庄駅では、高架構造物の建設に伴い淡路方面行きホームの一部が支障となるため、ホームを淡路駅方向へ約 30m 延伸し、電車の停車位置を変更して工事を進めています。

また淡路方面行きホームのトイレや駅員室等が、工事の支障となるためこれらを北千里方面行きホームへ移設する駅舎改良工事(平成 25 年 2 月完了)を行いました。

当駅を利用されている方には、ご不便をおかけしますが、ご理解とご協力をお願いします。



ホーム延伸部

○神崎川部の仮線橋梁

神崎川部では、仮線用の橋梁が平成 24 年 12 月に完成し、現在は吹田市の中の島公園付近を中心に仮線敷きの整備を行っています。

(右の写真の阪急電鉄右側が仮線橋梁)



仮線橋梁

○高架化された将来の下新庄駅

現在は、踏切を通らなければ、線路を越えての通行ができません。連続立体交差事業が完了し、下のイメージ図のように線路と駅が高架化されることにより、踏切がなくなり高架下を通行できるようになります。



将来のイメージ図



発行 平成 25 年 12 月

発行者:大阪市建設局

淡路駅付近連続立体交差事業だより

Vol.09

～平成 25 年 11 月に JICA(ジャイカ)の現場視察を行いました～



◆JICA(ジャイカ)現場視察

JICA(Japan International Cooperation Agency:独立行政法人 国際協力機構)は、日本政府の開発途上国支援を一元的に行う実施機関として、開発途上国への国際協力を行っています。JICA が協力している国は、約 150 カ国あります。毎年約 1 万人の日本人(専門家やボランティア)を海外に派遣する一方、開発途上国から約 1 万人以上の研修員を日本に招いています。

平成 25 年度 JICA 集団研修「総合都市交通計画・プロジェクト」として、現場視察が行われましたのでご報告します。

平成 25 年 11 月 27 日(水)に 17 カ国(ブラジル・カンボジア・エチオピア・インドネシア・イラン・ヨルダン・ケニア・モンゴル・モザンビーク・ミャンマー・ネパール・ペルー・フィリピン・スリランカ・タンザニア・トルコ・ザンビア)の研修員 18 名(ネパールから 2 名)の方々が、本連立事業を視察されました。

現場視察は、現場事務所において事業の概要や現在の進捗状況などについて説明を行い、現場事務所近くの工事現場で完成した高架構造物を視察されました。研修員の方々からは、高架構造物の構造や、自国の施工方法との違い等たくさんの質疑がありました。現場視察への積極的な姿勢が、写真でもご覧いただけるかと思えます。

一般的に連立事業は、事業規模が大きく、その中でも本事業は他に類を見ない規模であり、阪急電鉄の線路を高架化することにより、17箇所の踏切を除却することができます。踏切による交通事故や交通渋滞等の課題を抜本的に解決することができる事業として、今後も多方面への情報発信に努めていきたいと考えています。

現場視察の様子

